



西条キャンパスの共同溝

に、楽しく利用できる環境を提供すること、  
 (2)学内外との確実、迅速な情報交換の手段を  
 提供すること、及び(3)学内の情報資源を相互  
 に有効利用できる環境を整備して、学内から  
 国内外の開かれた情報資源に容易にアクセス  
 できるようにすること、を目的として、利用  
 者の便宜を図る管理運営体制を整える必要が  
 ある。

### HINETの整備計画

HINETの整備に当たっては、以上の構想  
 を基本とし、当面、緊急度が高く、かつ最小  
 限必要な整備から取り組む。具体的には、ケー  
 ブルの敷設、PBXの機能強化、NTT回線の借  
 上げ、ノードの設置、テレビ会議・遠隔講義  
 システムの導入、管理運営組織の整備、維持  
 経費の確保などである。本学は目下統合移転  
 を実施中であるため、関係工事経費などの面  
 で極めて有利な時機にあり、早急な整備が望  
 まれる。

## 情報ネットワークへのいざない

—これからネットワーク利用を考えられる方へ—

経済学部経営・情報講座 椿 康 和

これまでのキャンパス情報ネットワークの  
 整備は、理工学系の部局を中心として進めら  
 れてきた。そこではもはやネットワークを欠  
 いた研究活動は考えられない状況にある。今  
 後は人文・社会科学系部局や事務部門でも否  
 応なしにネットワーク化への対応が迫られて  
 くる。本節では、これからネットワークを利用  
 しようとする方々を対象に、加入方法や加  
 入に当たっての注意などを述べてみたい。

### ネットワーク加入により 広がる世界

試行LANプロジェクトによりネットワー  
 クに加入して、離れた場所にある様々なコン  
 ピュータを研究室のパソコンから利用し始め  
 て一年半(著者の場合)になる。総合情報処  
 理センターでは図書目録の検索結果の漢字表  
 示が可能になり、電子メールは通常の通信手  
 段が極めて貧弱な西条キャンパスとの連絡に  
 欠かせない。パソコンのワープロソフトで作  
 成しているこの原稿も、完成すればワークス

テーションに送り、電子メールで西条キャン  
 パスへ届けることになる。さらに、学部内  
 では統計データベースの共同利用も開始してい  
 る。このように、ネットワークは文科系学部  
 でも研究環境を大きく変えようとしている。

### ネットワークに入るには

#### まず利用者の登録を

電子メールや情報検索などのネットワー  
 クサービスを受けるといふことは、どこかのコ  
 ンピュータを遠隔利用することであるから、  
 まず、そのコンピュータに利用者として登  
 録しなければならない。  
 次に必要なのは、ネットワークに対するア  
 クセス手段であるパソコンなどの情報端末で  
 ある。

#### 研究室から利用するには

部局内LAN(サブLAN)のケーブルが研究  
 室の近くを通っていることが前提である。そ

れにパソコンを接続するにはいくつかの方法があり、使用目的や予算を考慮して選択することになる。例えば、使用頻度が高くデータ量も多い場合は、通信制御用のインターフェースボードやケーブル接続用の機器に十数万円程度を投じて、直接LANに接続することが望ましい。

### 自宅から利用するには

一般の電話回線を利用したアクセスでは、パソコン通信と同様にワープロやパソコンを端末として利用できる。すなわち、本体に加えモデムと通信ソフト（市販のパソコン通信用でよい）があれば、自宅からでもネットワークにアクセスして、自分宛のメールを見て返事を出すなどができる。ただし回線数が限られており通信速度もそれほど早くはない。

### ワークステーションが望ましい

最近安くなったとはいえ、ワークステーションはまだ高額であり、管理や操作もパソコンに比べかなり面倒である。しかし、ワークステーションがあればより高水準のサービスが可能である。例えば、電子メール一つをとっても、自前のアドレスをもつことが可能になるし、学科や講座内でのメールサービスを行うこともできる。このため、本格的なネットワーク利用のためにはワークステーションの導入が不可欠である。

### 経験者に相談を

本学のネットワークは、現在、学内各所のボランティアの協力で運営されており、その利用にあたって、必要な手続きや機器の選択などを助言してくれる組織は整備されていない。このため、身近な経験者に相談するのが最も近道である。

### コンピュータネットワークから人のネットワークへ

情報ネットワークへの加入が様々な新しい仲間との出会いをもたらすことは、パソコン通信をみれば明らかである。試行LANプロジェクトも研究環境の改善だけでなく、それまでほとんど無縁であった人々の間に新しいネットワークを生み出した。コンピュータネットワークの整備により、学部、学科の枠

### 部局内LAN構築状況

- 総合科学部 [東千田キャンパス]  
平成元年度から段階的に構築中
- 学校教育学部 [東雲キャンパス]  
平成2年度から段階的に構築中
- 法学部・経済学部 [東千田キャンパス]  
平成元年度から段階的に構築中
- 理学部 [東千田キャンパス]  
昭和58年度から段階的に構築(移転終了時に廃止。  
ただし基幹部分は試行LANとして使用中)
- 理学部 [西条キャンパス]  
平成3年9月移転時から段階的に構築中
- 霞キャンパスの各部局
  - ・昭和60年度に病院情報ネットワークを一部構築
  - ・平成3年度からキャンパス全域を段階的に構築する予定
- 工学部 [西条キャンパス]  
昭和59年度から段階的に構築中
- 総合情報処理センター [西条キャンパス及び東千田キャンパス]
  - ・平成元～2年度に西条キャンパス建物を中心に構築
  - ・平成4年3月にセンター利用者のためのネットワークを構築する予定
- 附属図書館 [各キャンパスに分散]  
各館とも平成2年度に構築(試行LANとの接続を検討中)
- 本部(事務局・学生部) [東千田キャンパス]
  - ・平成元年度に一部構築(総合科学部LANの延長)
  - ・平成4年2月に本部棟を中心に構築する予定
- その他の部局  
順次構築する計画

#### 用語説明

##### インタフェースボード

複数の情報機器がお互いに情報通信を授受するため、パソコンなどに入れて使う装置。

##### LANボード

イーサネット(IEEE802.3)を利用できるようにするためのインタフェースボード。

##### ネットマスク

IPアドレスのホストアドレスをサブネット部とホスト部に分けて使うことを通信ソフトウェアに知らせるための情報。

##### アドレス管理小委員会

本学のネットワークに関するアドレスを管理することを目的として、情報ネットワークシステム検討・推進委員会専門委員会の下に設置されたボランティア組織。

を超え、教職員、学生の区別なく、すべての大学構成員に対して開かれた情報交流の場が提供されるならば、それが大学全体を活性化し、ひいては多くの課題を抱えた本学にとって自己変革をもたらす力となるであろう。

## ネットワーク接続の手順例

### 一 パソコンをネットワークへ接続し、総合情報処理センターへアクセスする場合

総合情報処理センターの提供する情報を基に、接続するパソコンの機種、LANボードの種類および端末ソフト等を決定する。

最寄りのサブLAN管理者と接続について打ち合わせる。接続が受け入れられない場合は別のサブLANを探す必要がある。

接続先のサブLAN管理者より接続するパソコンのホスト名およびホストアドレスの配布を受ける。

パソコン上のネットワーク関係ファイルの設定を行った後、物理的接続を行う。接続形態などについてもサブLAN管理者と詳細に打ち合わせる。

総合情報処理センターの利用者でない場合は利用者登録申請を行う。(この手続きは前もって行うこともできる)

センターのマシンに対しリモートログインやファイル転送の試験を行う。問題がある場合はサブLAN管理者やセンターの担当者と相談する。

### 二 ワークステーションをネットワークへ接続し、電子メールの運用を行う場合

最寄りのサブLAN管理者と接続について打ち合わせる。接続が受け入れられない場合は別のサブLANを探す必要がある。

ワークステーションの機種及びOSの種類等をサブLAN管理者に伝え、ホストアドレスの配布を受ける。機種やOSの種類によっては接続を拒否されることもある。

ワークステーション上のネットワーク関係の設定を行った後、物理的な接続を行う。IPアドレスやネットマスクなどを正しく設定すること。また、接続形態などについてもサブLAN管理者と詳細に打ち合わせる。

サブLAN管理者等と相談して、サブドメイン名及びホスト名を決める。また、電子メールの配送の方法についても打ち合わせる。

既にネットワークに接続されているホストとの間で接続テスト(リモートログインなど)を行う。

電子メールの配送に必要な設定を行い、テストする。設定の必要があるファイル等はメールの配送経路/方法により異なるので注意が必要である。

### 三 新たにサブLANを構築して接続する場合

アドレス管理小委員会に接続申請を行う。その際、申請者氏名、管理者氏名、敷設するLANの概略図、ルータの機種等が必要となる。

申請が受理されるとサブネットアドレスが与えられる。

接続作業を行う。ケーブル敷設作業等は申請の受理以前に行ってもよいが、学内LANへの接続作業は、必ず申請の受理を待って行うこと。

サブLANの管理者は、サブLANに接続する機器のユーザの指導、管理を責任をもって行うこと。また、アドレス管理小委員会との連絡を密にし、問題が起こった場合速やかに対処できるようにしておくこと。

ネットワーク接続手順は概ね以上のとおりであるが、部局によって異なる部分もあるため、身近におられる経験者や事務部の用度担当係等と相談しながら進めていただきたい。また、HINETJに関しての不明な点については庶務部企画調査課情報処理係(内線・本部三七一〇・三七〇八)までお問い合わせいただきたい。